

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立佐志小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科をはじめ、すべての教科において人権・同和教育の視点を持ち、心の教育を行い、善悪の判断ができる児童の育成を行う。 ・自分の思いや考えを表現できる算数科指導方法の工夫を行ってきたが、力がついてきた部分とまだ十分でないところがあるので、引き続き研究を行い学力の向上を目指す。 ・地域に開かれた学校、教育課程を目指し、実践を行ってきた。徐々に成果が表れてきたので、引き続き連携を行っていく。
------------------	---

2 学校教育目標	<p>「わたしらしく あなたらしく 輝くさしっ子」 ～ 気づき・考え・実行する子どもの育成 ～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>「子ども大人も笑顔が輝く学校」 ○児童が存在感や自己所用感をもつ ○家庭・地域・学校が信頼し合う ○教職員は成就感・充実感をもてる</p> <p>「にこ・きび・はき・どん」 ○にこにこ…笑顔であいさつ・返事ができる子 ○きびきび…気づき・考え・実行する子 ○はきはき…よく聞き考えて話す子 ○どんどん…自分や友達のよさを見つける子</p> <p>「美人教師であれ」 ○子どもを愛し知恵を出し共に汗かき成長を喜ぶ教職員 ○子どもの学びや育ちを支える教職員 ○自己研鑽に励む教職員 ○児童、保護者、地域、同僚から信頼される教職員</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○学習習慣及び基礎基本の定着 ○学力向上を目指す授業改善研究	○始業時間に席に着き、学習の準備ができている児童80%以上。 ○期末テストの漢字、計算テストにおいて、クラス平均70%以上を目標とする。 ○「話し合い活動のよさを感じる」と回答した児童70%以上。	「休み時間に次の準備とトイレを済ませる」2分前行動することを意識させ、指導の徹底を図る。 ・朝のスキルタイムを計画的に行い、言語事項や計算等の習熟を図る。一斉・合座集での「リル学習」も取り組む。 ・授業では、交流活動の場を設定し、自分の考えを伝えたり、様々な考えに触れたりできるようにする。							まなび部	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート結果から、自分や友だちの良さや、違いを認めるよさを回答した児童が80%以上。	・人権・同和教育の視点で授業を行う。人権の日集会、「ありがとうメッセージ」かがきメッセージなどを計画的に実践し、自他を大切にすることを育む。 ・道徳では、話し合いなどを通して自分事として捉えられるような授業実践を行う。							なかま部	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止について組織的対応ができていると回答した教職員が80%以上。 ○アンケートで「学校に行くことが楽しい」と回答した児童が80%以上。	「心のアンケート」で児童の実態を把握し、それを受けて「子ども理解研」を実施し、組織的対応を図る。 ・事実発生時には「いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に早急に対応する。							なかま部	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・授業や学校行事等を通して、児童が夢や目標について自ら考える時間を設ける。 ・児童を称賛する場面を多く設定し、自尊感情を育てる。 ・地域の人材を活用するなど、学年に応じたキャリア教育を実施する。								なかま部
	○児童が毎日笑顔で登校、満足して下校する学校環境づくり。	○「学校は楽しい」に肯定的な回答をした児童80%以上	・職員全体で児童を見守る体制づくり。 ・児童の「楽しい」を、掲示物などを通して視覚化する。								管理職
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上	・体育委員会の活動を軸として、各学級のボール等の整備を行い、外遊びを推進する。 ・各学級が「スポーツチャレンジ」へ積極的に参加できるような取り組みを進める。 ・なわとびタイム、マラソントimeを年間計画に位置づけ、実施する。							くらし部	
	●「望ましい生活習慣の形成」	●早寝・早起き・朝ごはんを推奨し、家庭へ啓発する。生活アンケート等による児童・保護者の達成率80%以上。	・通信やホームページ等で、保護者に向けて積極的な啓発を行う。 ・児童期の身体の発達にとって睡眠や朝食の大切さ等を段階的に指導する。								
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○予期せぬ自然災害から、命を守る行動をとることができる児童の育成。	○自然災害を想定した避難訓練時の指導で、命を守るための適切な判断ができる児童生徒80%以上	・避難訓練前後に、自然災害時の行動に関する意識調査を行い、命を守る行動力につなげる指導を実施する。							くらし部	
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・退勤時刻の設定を行う ※月～木2.5h(19:10)、金1.5h(18:10) ・職員会議や連絡会の内容精選や、計画的・効果的な運営、ペーパーレス化を推進する。							管理職	
●特別支援教育の充実	○業務改善に関する、教職員の意識向上。	○1年間で業務改善(働き方改革と働きがい改革)の取り組みを3回以上行う。	・業務改善や、ライフワークバランスに関する研修を行い、意識改善につなげる。 ・年休を取得しやすい雰囲気づくりを行う。							管理職	
	○特別支援教育に関する教職員の意識の向上と支援の在り方の理解促進。	○特別な支援が必要な児童への支援の在り方に関するアンケートで、肯定的な回答の教職員90%以上	・特別支援教育に関する研修会を年5回実施する。 ・校内支援委員会を通して、情報共有を行う。							特別支援コーディネーター	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域の題材や人材を活用した授業を推進し、地域を誇りに思う児童の育成を図る。	○唐津市・佐志校区を好きになる教育活動の充実を図る	○「佐志校区が好き」「唐津が好き」に肯定的な回答をした児童90%以上	・地域人材を中心としたゲストティーチャーを積極的に活用し、各学年で、地域の方々や文化に触れる学習活動を多く設定する。							管理職
○人権・同和教育を基盤とした、「心の教育」の推進。	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート結果から、自分や友だちの良さや、違いを認めるよさを回答した児童が80%以上。	・人権・同和教育の視点で授業を行う。人権の日集会、「ありがとうメッセージ」かがきメッセージなどを計画的に実践し、自他を大切にすることを育む。 ・道徳では、話し合いなどを通して自分事として捉えられるような授業実践を行う。							人権・同和教育担当

●…果共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
--------------------	---